

# 式 辞

新入生の皆さんの前途を祝うように、ここ丹波高原、蒲生野ヶ原の桜も咲き誇り、木々も芽吹き、自然の躍動が実感できる、まさに春本番の季節となりました。この佳き日に、令和四年度京都府立須知高等学校入学式を挙行しましたところ、

京丹波町長 畠中 源一様をはじめ御来賓の皆様、並びに保護者の皆様には、御多用のところ、ご臨席を賜り、新入生に温かい激励をいただきませうことに、高壇からではありますが、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、ただ今入学を許可しました新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

本校は、明治九年に京都府農牧学校として創立され、百四十六年の歴史と伝統のある学校です。

このような伝統を持つ須知高校に入学した皆さんは、新たな歴史を刻んでいただくことになります。是非、これまでの歴史と伝統を受け継ぎ、さらに発展させることができるよう努力してくれることを期待しています。

本校は「自主・規律・誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と、豊かな情操を身に付けた有為な社会の形成者を育成することを教育の根幹としています。

また、本校は地元京丹波町様から須知高校教育活性化推進協議会をとおして、交付金をいただいている学校です。希望進路の実現のための学力向上、地域と連携した探究活動、資格取得や部活動など様々な教育活動において

御支援をいただいています。

さらに、ホッケー部員の全国募集では、その第三期生が入学してくれました。本校ホッケー部の活性化から学校全体の活性化に繋げ、京丹波町の活性化にも繋げていきたいと考えております。

それでは、こうした須知高校で学ぶ皆さんに、高校生活において、大切なことを三つ話しておきます。

一つ目は、「なりたい自分の姿を描く」ことです。入学したばかりの皆さんに高校卒業後の自分の姿を想像するのは難しいかもしれませんが、目標設定が早いほど、その目標に向かうための準備期間が確保できます。高校三年間をどのように過ごすかが、今後の皆さんの人生に大きく影響します。「なりたい自分の姿」というものを常にイメージしながら日々の授業や部活動に取り組み、充実した高校生活を送って欲しいと思っています。

二つ目は、「継続する力を養う」ことです。何事においても継続することの大切さは皆さんも知っていると思います。しかし、その一方では継続することの難しさも知っていると思います。継続するためには、なぜ、継続する必要があるのか、その目標を明確する必要があります。目標が明確でなければ、苦しい時や成果が出ないときにあきらめてしまうことにつながります。そんな時、一つ目に話をした「なりたい自分の姿」がイメージできていけば継続できると思っています。そして、継続する内容も、少し頑張ればできることから始め、さらに、ライバルは他人ではなく、今の自分だと設定して始めることが重要です。その継続を繰り返し、時には修正等もしながら実行すれば、自分の設定した目標に近づくことができると思います。早速、今日から始めてください。

三つ目は、「人の和を大切にすることです。学校には個性や特性が違う仲間がたくさん

さんいます。その仲間同士が協力し、助け合うところが学校です。相手の意見や立場を尊重し、理解と共感をしながら、自分の考えを相手に伝えるなかで協力関係を築きあげることも重要だと考えます。集団の中で生活をすすめる上ではチームワークが大切です。チームが上手くまとまれば、チームの雰囲気も良くなり、個人個人の能力が十分に発揮でき、チーム力が高まります。しかし、チームがまとまっていなければ個人の能力が高くても、その能力が発揮できず、結果としてチーム力も高まりません。チーム内で目標を共有して、しっかりと話し合い、和を大切にすれば、個人の潜在能力が発揮され、チーム力も高まります。あとになりましたが、保護者の皆様、本日はお子様の御入学誠におめでとうございます。高校生として頼もしく成長された姿に感激され、今後の高校生活に大きな期待をされていることと存じます。私たち教職員一同、皆様

の御期待に沿えるよう全力を尽くす所存であります。

しかし、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況の中で、お子様の健やかな成長を考えるとき、御家庭の協力が不可欠となります。家庭と学校が互いに連携し、お子様が安心して学校生活を送れるよう、なにとぞ本校の教育活動への、深い御理解と御協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

結びにあたり、入学生のみなさんが三年後卒業するときには須知高校で学んで良かったと実感してくれることを期待して、式辞とします。

令和四年四月八日

京都府立須知高等学校

校長 湯川 佳秀